



2022年度 創発的研究支援事業 公募概要説明

概要のみの紹介です。
応募にあたっては募集要項をお読みください。

国立研究開発法人科学技術振興機構
創発的研究支援事業推進室



創発的研究支援事業



文部科学省

既存の枠組みにとらわれない自由で挑戦的・融合的な研究を、研究者が研究に専念できる研究環境を確保しつつ長期的に支援

- ✓ ムーンショット型研究開発及び創発的研究の支援により、破壊的イノベーションにつながる成果を創出する。〈経済財政運営と改革の基本方針2020〉
- ✓ 特に、挑戦的研究や分野融合的研究を進めるためには、短期的な成果にとらわれないことなく研究に専念出来る環境の確保が必要であり、創発的研究支援事業による支援を開始する。〈統合イノベーション戦略2020〉
- ✓ 今後の政府研究開発投資の方向性として、Society 5.0の実現を目標とした「戦略的研究」と、特定の課題や短期目標を設定せず、多様性と融合によって破壊的イノベーションの創出を目指す「創発的研究」の2つの研究に注力すべきである。〈日本経済団体連合会提言〉

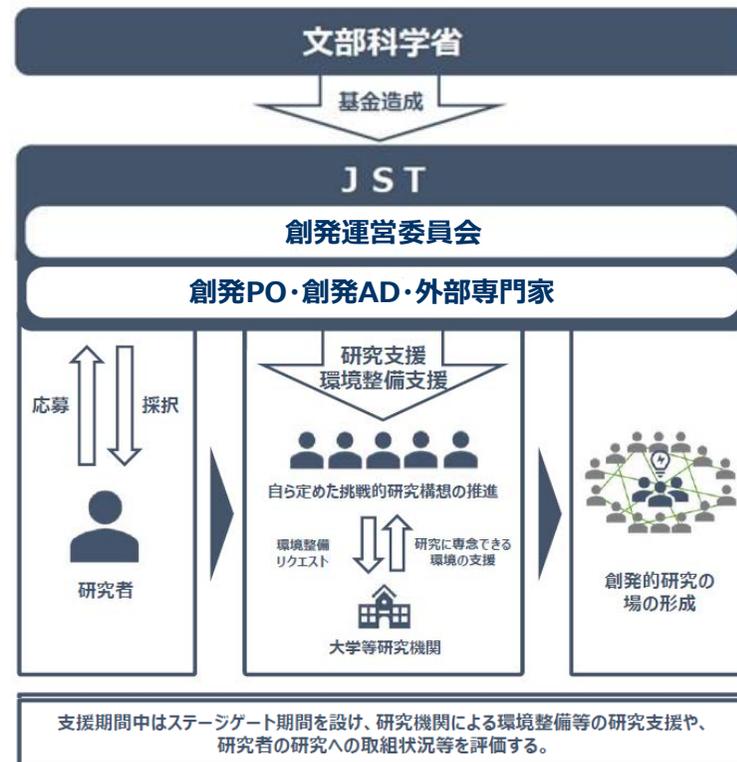
【概要】

- 応募要件：大学等における独立した／独立が見込まれる研究者
※博士号取得後15年以内（育児・出産・介護等のライフイベントへは別途配慮）
- 採択件数：250件程度／年×3回公募
※当初予算では、新規公募に係る審査・採択等に必要な経費を措置
- 支援単価：700万円／年（平均）＋間接経費
※事務負担の軽減等による研究時間の確保に資する用途など、分野や研究者の置かれた環境に合わせて機動的に運用（パイアウト制度（研究以外の業務の代行に係る経費を支出可能とする見直し）や、直接経費から研究代表者の人件費（PI人件費）の支出について、先行的に導入）
- 支援期間：7年間（最長10年間まで延長可）
- 支援期間中、研究者が所属先を変更した場合も支援の継続を可能とし、研究者の流動性を確保
- 別途、大学等所属機関からの支援状況等に鑑み、研究環境改善のための追加的な支援を実施
※研究の進捗状況等に対応し、独立した研究者の下で創発的研究を支える博士課程学生等へのRA支援を充実
- 創発的研究の場を形成し、研究者同士がお互いに切磋琢磨し相互触発する機会を提供

【特徴】

- ① 若手を中心とした多様な研究人材を対象に、国際通用性・ポテンシャルのある研究者の結集と融合
- ② 所属機関等からの支援のもと、研究者が創発的研究に集中できる研究環境を確保
- ③ 上記①②を通じて、研究者が、生き活きと、自ら定めた挑戦的な研究構想を推進

【事業スキーム】



→ **優れた人材の意欲と研究時間を最大化し、破壊的イノベーションにつながる成果を創出**



2022年度公募スケジュール

研究提案の募集開始	<u>2022年5月12日（木）</u>
研究提案の受付締切 (e-Radによる受付期限日時)	<u>7月20日（水）午前12時（正午）</u> <u><厳守></u>
書類選考期間	7月下旬～11月上旬
面接対象者への通知	10月中旬～11月中旬
面接選考期間	11月中旬～12月
選定課題の 通知・発表	1月以降順次通知・発表
研究開始	2023年4月開始



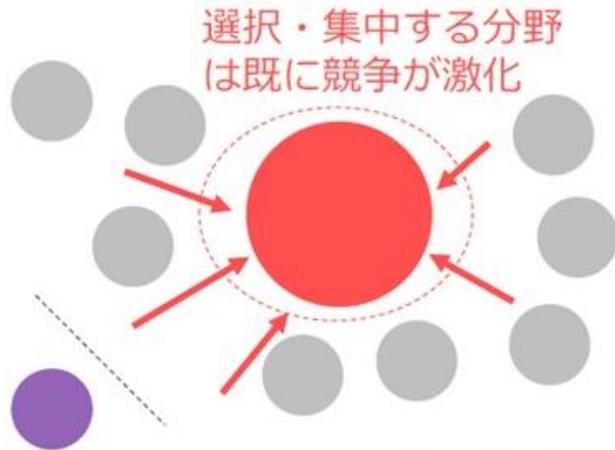
応募における注意事項

- ✓ 定められた募集締切日時（7月20日（水）午前12時（正午））までに応募手続きが完了していない提案については、いかなる理由があっても審査の対象とはいたしません。
- ✓ また、募集締切時刻以降の提案書の差し替え等には応じられません。
- ✓ 締切間際はe-Radにアクセスが集中することでレスポンスが遅くなる可能性がありますので、時間的余裕を十分とって、応募を完了してください。



創発的研究とは

選択と集中



選択・集中する分野
は既に競争が激化

破壊的イノベーションは選択から
外れた想定外の分野から起きる



戦略と創発



Society 5.0の実現を
目指す戦略的研究

課題や短期目標を設定せず、多様性と融合によって
破壊的イノベーションの創出を目指す創発的研究

出展：Society5.0の実現に向けた「戦略」と「創発」への転換（日本経済団体連合会）

創発とは（「組織論」より）

「個人個人の能力や発想を組み合わせる取組により、ある一定の要件に基づいた予測や意図を超えるイノベーションを誘発する様」



創発的研究支援事業の要素

破壊的イノベーションにつながるシーズ創出のために、 創発的研究を支援

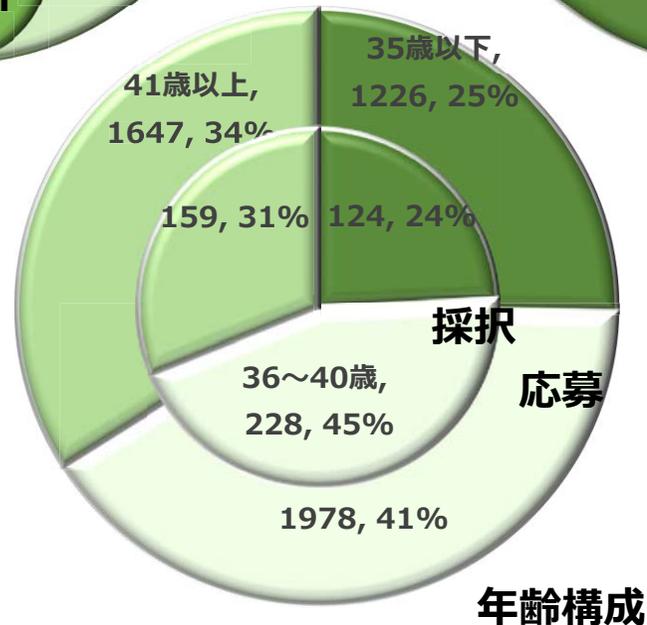
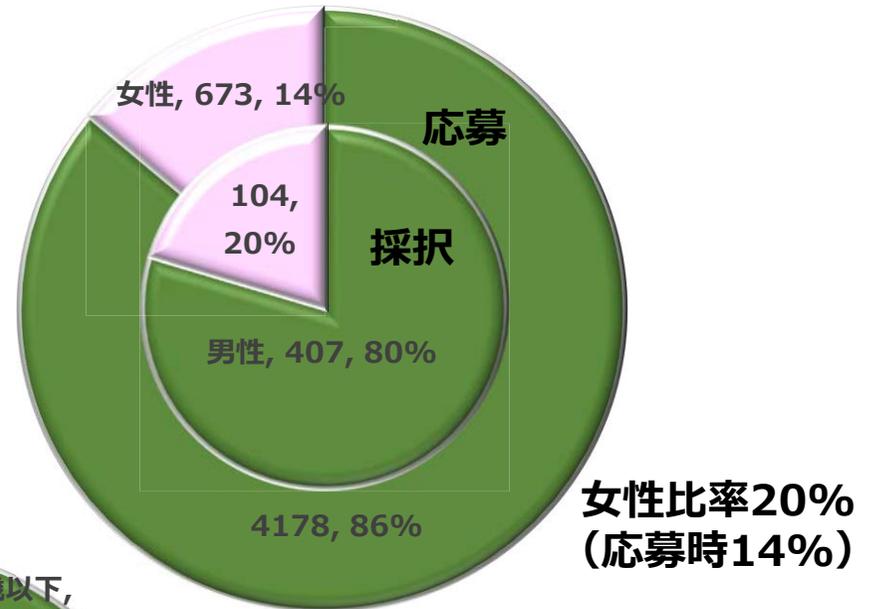
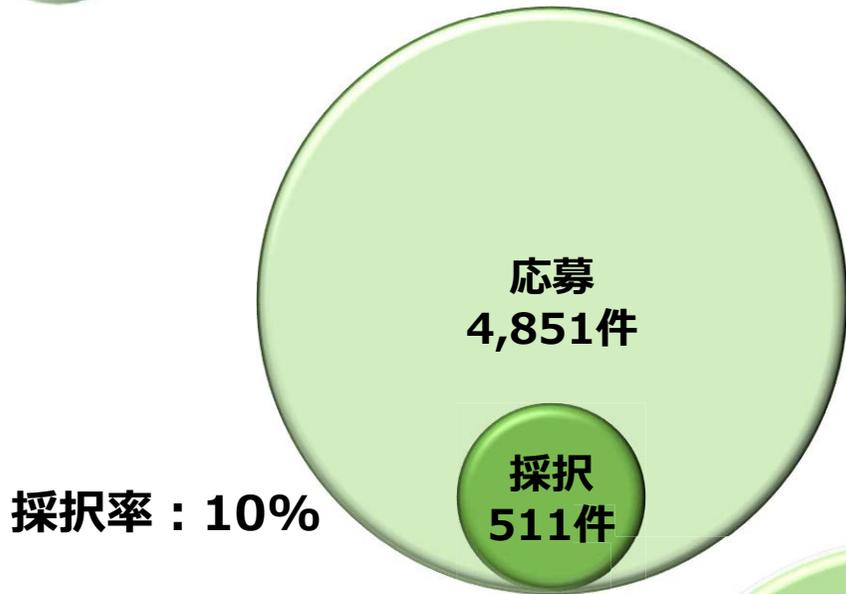
- ✓ 失敗を恐れない野心的な**挑戦**への支援
 - ・ 長期的研究費（原則7年・最長10年）
 - ・ 独立した/独立予定の研究者が対象
 - ・ 研究に専念できる環境整備を支援
- ✓ **多様性**の向上
 - ・ 多様な研究課題・研究者、国際流動性の向上
- ✓ **融合**の促進
 - ・ 創発の場の提供、メンター制度



**2020&2021年度（第1&2回）
創発的研究支援事業
公募結果の概要**



創発公募採択状況（二期合計）



年齢構成



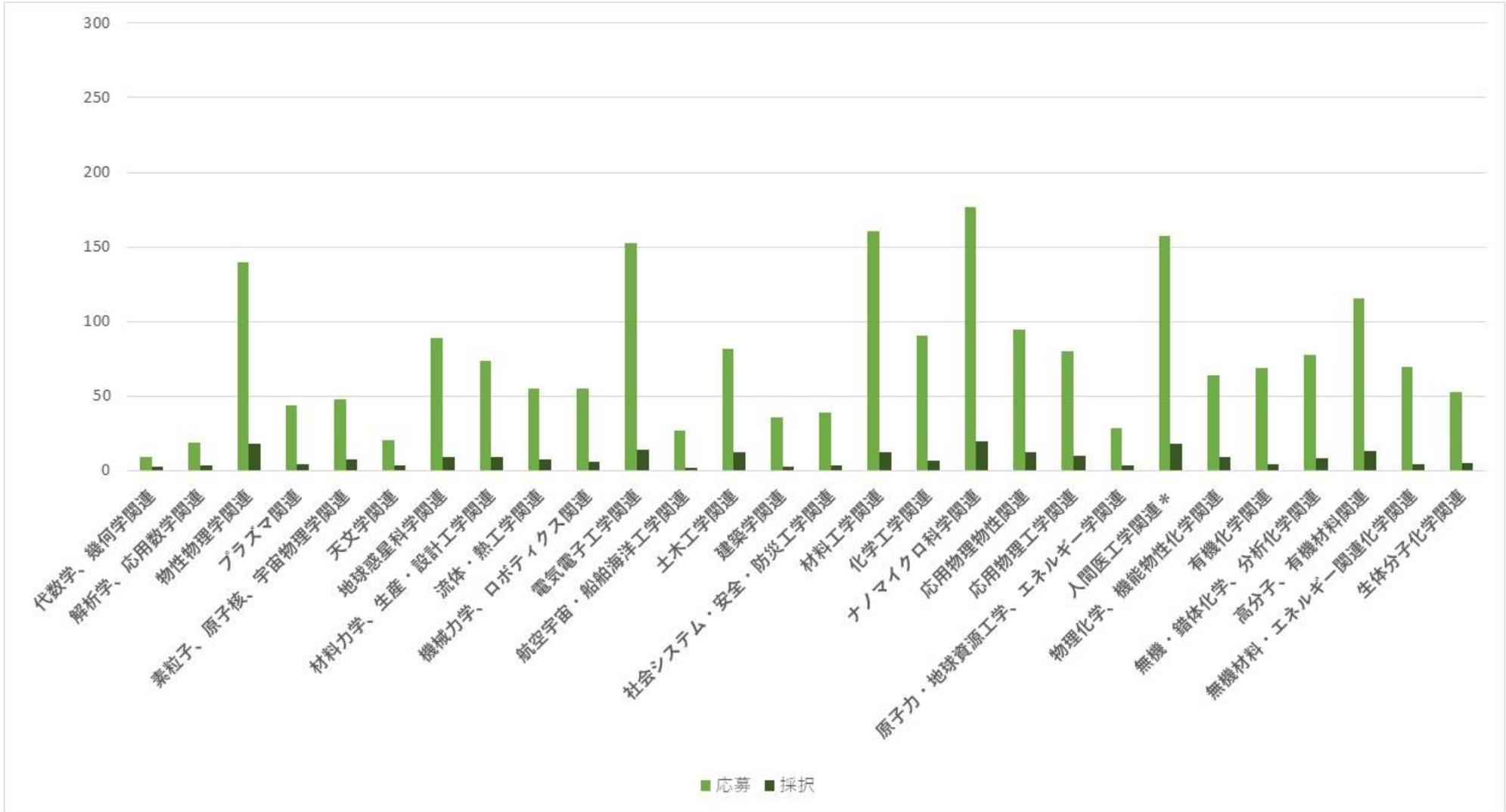
創発公募採択状況 (二期合計)

104研究機関 (所属は採択時点)

所属	採択	所属	採択	所属	採択	所属	採択	所属	採択
東京大学	56	岡山大学	5	量子科学技術研究開発機構	2	ミシガン大学	1	長崎国際大学	1
東北大学	40	徳島大学	5	大阪府立大学	2	テキサス大学	1	同志社大学	1
京都大学	40	順天堂大学	4	豊橋技術科学大学	2	コネチカット大学	1	北見工業大学	1
名古屋大学	38	東京都立大学	3	富山大学	2	オックスフォード大学	1	横浜国立大学	1
大阪大学	34	東京理科大学	3	信州大学	2	お茶の水女子大学	1	関西医科大学	1
九州大学	23	岐阜大学	3	静岡大学	2	宇宙航空研究開発機構	1	高知工科大学	1
東京工業大学	21	鳥取大学	3	高エネルギー加速器研究機構	2	森林研究・整備機構	1	横浜市立大学	1
筑波大学	17	長崎大学	3	名古屋市立大学	2	愛知県がんセンター	1	成蹊大学	1
北海道大学	14	沖縄科学技術大学院大学	3	藤田医科大学	2	基礎生物学研究所	1	青山学院大学	1
慶應義塾大学	11	海洋研究開発機構	3	東海大学	2	自治医科大学	1	鹿児島大学	1
金沢大学	11	国立がん研究センター	3	東京慈恵会医科大学	2	東京女子医科大学	1	大阪市立大学	1
熊本大学	11	物質・材料研究機構	3	長岡技術科学大学	2	国立情報学研究所	1	杏林大学	1
産業技術総合研究所	8	分子科学研究所	3	山形大学	2	帝京大学	1	宮崎大学	1
理化学研究所	8	香川大学	2	山梨大学	2	千葉県がんセンター	1	秋田大学	1
千葉大学	7	東京都医学総合研究所	2	群馬大学	2	京都府立医科大学	1	三重大学	1
早稲田大学	7	芝浦工業大学	2	奈良先端科学技術大学院大学	2	帯広畜産大学	1	東京海洋大学	1
広島大学	7	福井大学	2	北陸先端科学技術大学院大学	1	小山工業高等専門学校	1	龍谷大学	1
東京医科歯科大学	5	明治大学	2	日本原子力研究開発機構	1	札幌医科大学	1	近畿大学	1
東京農工大学	5	山口大学	2	マックスプランク研究所	1	静岡県立大学	1	がん研究会	1
電気通信大学	5	埼玉大学	2	フリュツ・ハーバー研究所	1	国立極地研究所	1	東京農業大学	1
神戸大学	5	新潟大学	2	オーストラリア国立大学	1	生理学研究所	1		

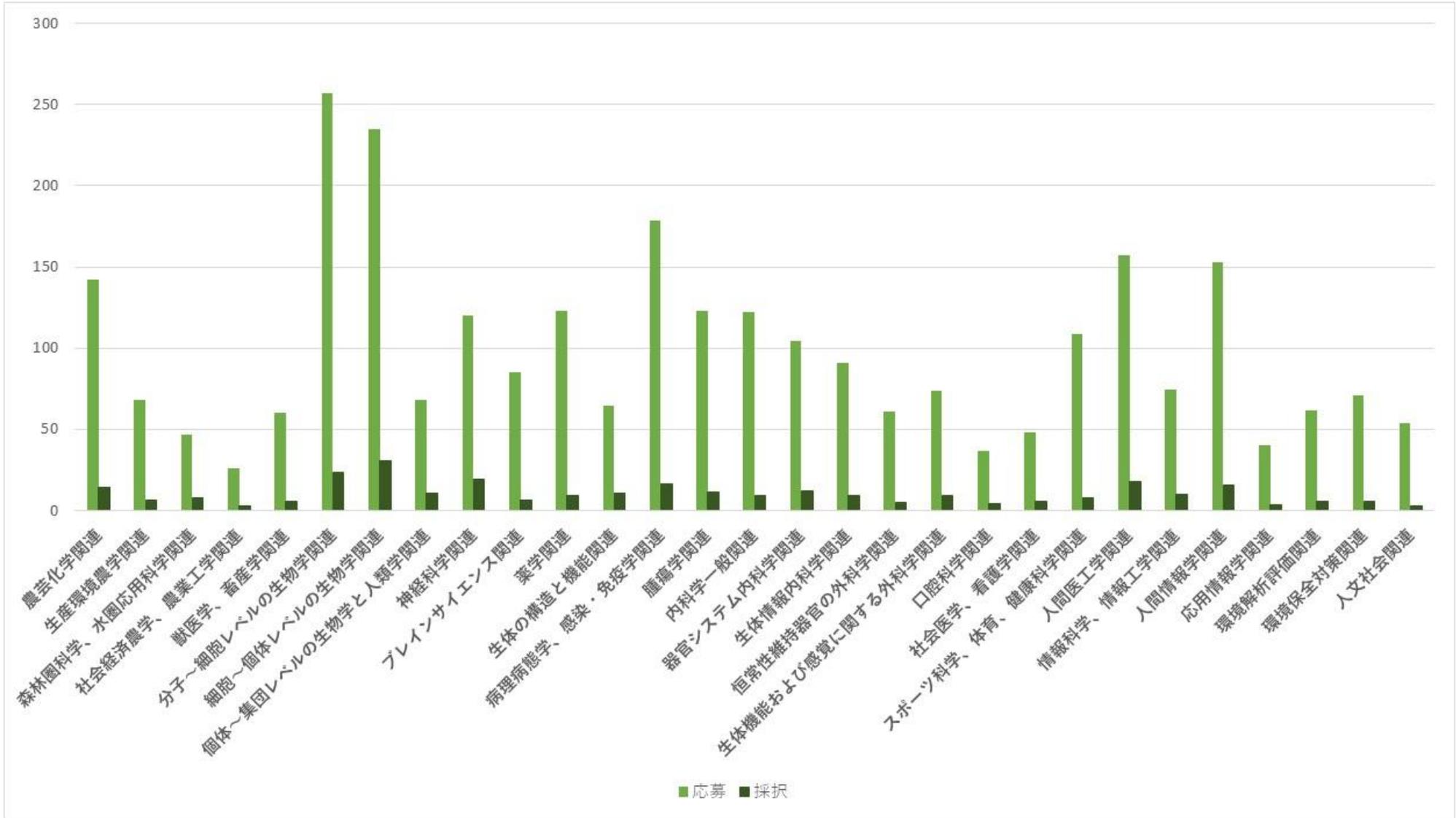


創発公募採択状況（二期合計）





創発公募採択状況（二期合計）





本資料は概要の紹介です。
応募にあたっては募集要項をお読みください。



昨年度からの主な募集要項の変更点

- ✓ 募集要項の項目の順番が一部変更
- ✓ 1.2.4 人文社会審査チーム チーフアドバイザーのメッセージの追加
- ✓ 3.4.3 追加研究環境整備支援の概要説明の追加
- ✓ e-Radシステムの刷新
- ✓ 6.2 創発POメッセージの一部変更
- ✓ その他、文章の明確化など



審査フロー





阿部 敬悦
東北大学

【専門】応用微生物学、
農芸化学

創発PO

創発研究者採択（審査）、メンター（育成）
創発の場運営（融合促進）



田中 純子
広島大学

【専門】公衆衛生学、
社会科学

天谷 雅行
慶應義塾大学



【専門】皮膚科学、
免疫学

川村 光
大阪大学



【専門】物性科学

堀 宗朗
海洋研究開発機構



【専門】応用力学、
計算地震工学



石塚 真由美
北海道大学

【専門】化学物質影響、
環境農学、獣医学



北川 宏
京都大学

【専門】固体物性化学、
ナノ物質科学



水島 昇
東京大学

【専門】医化学、
細胞生物学

福島 孝典
東京工業大学



【専門】有機化学、
高分子化学

合田 裕紀子
理化学研究所



【専門】神経科学、
脳神経科学

八木 康史
大阪大学



【専門】知覚情報処理、
知能ロボティクス



井村 順一
東京工業大学

【専門】制御工学



塩見 美喜子
東京大学

【専門】RNA生物学



吉田 尚弘
東京工業大学

【専門】環境動態解析、
地球化学



創発パネルの構成（創発POと創発AD）

阿部パネル

創発PO: 阿部 敬悦(東北大学 大学院農学研究科 教授)



メッセージ動画

【専門分野】応用微生物学(農芸化学)

東北大学卒業後、キッコーマン株式会社、米国Johns Hopkins大学を経て、1999年 東北大学へ。2009年より東北大学大学院農学研究科教授を務め、2017年東北大学未来科学技術共同研究センター副センター長、2019年より研究科長・学部長を兼務。

この間、日本農芸化学会理事、日本農芸化学会副会長等を歴任。日本農芸化学会BBB論文賞などを受賞。博士(農学)。専門は、応用微生物学で、産業微生物に関する新規バイオプロセスの研究開発を行っている。特に、微生物細胞表面機能の解明と応用展開として、輸送体を利用した化成品の発酵生産、糸状菌高密度培養技術の開発、糸状菌のプラスチック分解機構の解明、抗真菌剤探索技術の開発など、広範な分野での応用研究に取り組む。

創発アドバイザー(五十音順)

乾 将行 地球環境産業技術研究機構 バイオ研究グループ グループリーダー・主席研究員

熊谷 日登美 日本大学 生物資源科学部 教授

佐藤 和広 岡山大学 資源植物科学研究所 教授

白須 賢 理化学研究所 環境資源科学研究センター 副センター長

陶山 佳久 東北大学 大学院農学研究科 教授

高山 誠司 東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授

仲井 まどか 東京農工大学 農学研究院 教授

吉崎 悟朗 東京海洋大学 学術研究院 海洋生物資源学部門 教授

<https://www.jst.go.jp/souhatsu/research/index.html>



創発POの主担当分野およびメッセージ（参考）

創発POが主に担当する分野 （阿部POの事例）

創発POメッセージ （阿部POの事例）

創発パネル	コード	分野	コード	研究の内容
阿部パネル	189	ライフサイエンス	38010	植物栄養学、土壌学
	189	ライフサイエンス	38020	応用微生物学
	189	ライフサイエンス	38030	応用生物化学
	189	ライフサイエンス	38040	生物有機化学
	189	ライフサイエンス	38050	食品科学
	189	ライフサイエンス	38060	応用分子細胞生物学
	389	環境	39010	遺伝育種科学
	389	環境	39020	作物生産科学
	389	環境	39030	園芸科学
	389	環境	39040	植物保護科学
	389	環境	39050	昆虫科学
	389	環境	39060	生物資源保全学
	389	環境	39070	ランドスケープ科学
	189	ライフサイエンス	40010	森林科学
	189	ライフサイエンス	40020	木質科学
	189	ライフサイエンス	40030	水圏生産科学
	189	ライフサイエンス	40040	水圏生命科学

参照：募集要項6.1

本パネルの扱う領域は、自然との共生をはかり、人類の生存にとって必須の食を含む多様な生物マテリアルの生産及びそのマテリアルの変換を探索する研究領域となります。

地球的規模で様々な課題が山積する今日、農学研究が日本と世界に果たすべき役割は非常に大きくなっています。農学領域が抱える社会的課題は、国内においては人口減少と少子化に伴い農業従事者の減少と高齢化が進行し、弱体化しつつある農林水産業・食品バイオテクノロジー産業を成長産業へと転換すること、食料の安定供給体制を構築することです。世界においては、100億人の人類生存のための食糧生産の確保と地球規模での環境保全・自然共生があげられます。環境変動や自然災害への対応も解決すべき重要な課題です。このような課題を抱える農学領域において、大きな変革をもたらす起爆剤となる研究提案を皆さんには期待しております。

挑戦的な研究の実現には時には困難が待ち受けるものと思われませんが、創発POを含むアドバイザーで構成されるメンターチーム、本事業事務局が一体となって研究期間中、研究者の皆さんと伴走いたします。また本事業では「創発の場」として、パネル内及び異分野パネルの研究者やアドバイザーの方々との交流の機会も予定されており、是非、相互に刺激・啓発し合いながら、自由闊達に研究を進めていただくことを期待いたします。

メンターチーム、事務局一同、皆様からの意欲的な研究提案をお待ちしております。

阿部 敬悦

参照：募集要項6.2



人文社会審査チーム

創発チーフ・アドバイザー：小林 傳司(大阪大学 COデザインセンター 特任教授)



【専門分野】科学哲学・科学技術社会論

京都大学理学部卒、東京大学科学史・科学基礎論博士課程単位修得満期退学後、福岡教育大学、南山大学を経て、2005年大阪大学教授、2015年より理事・副学長を務め、2020年より同名誉教授、COデザインセンター特任教授。2019年よりJST 社会技術研究開発センター(RISTEX)上席フェロー、同センター長を兼務。科学技術社会論学会を立ち上げ(初代会長)。日経BP・BizTech図書賞、科学技術社会論学会柿内賢信記念賞特別賞を受賞。

専門は科学哲学・科学技術社会論。遺伝子組み換え技術等に関する市民参加型の合意形成会議(コンセンサス会議)を開催。科学が問うことができるが、科学だけで答えられない問題である、「トランス・サイエンス」を日本に浸透させた。

創発アドバイザー(五十音順)

- 伊勢田 哲治 京都大学 文学研究科 教授
- 神里 達博 千葉大学 大学院国際学術研究院 教授
- 唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授
- 木部 暢子 人間文化研究機構 機構長
- 窪田 幸子 芦屋大学 学長
- 齊藤 智 京都大学 大学院教育学研究科 教授
- 高村 ゆかり※ 東京大学 未来ビジョン研究センター 教授
- 谷本 寛治 早稲田大学 商学大学院商学部 教授
- 中村 知靖 九州大学 大学院人間環境学研究院 教授
- 芳賀 京子 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授
- 町村 敬志 東京経済大学 コミュニケーション学部 教授
- 松下 佳代 京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授
- 溝端 佐登史 京都大学 経済研究所 特任教授

<https://www.jst.go.jp/souhatsu/research/index.html>

参照：募集要項1.2.4 人文・社会科学と自然科学の融合に向けて



パネル・分野のe-Rad登録時の注意

- ✓ 審査を主査する創発パネル（創発PO）、研究分野（主）、研究分野（副）をe-Radで必ず指定してください。
- ✓ 特に、研究分野（副）はe-Radのシステム上では「任意項目」となっていますので、入力を忘れないようご注意ください。
- ✓ 研究分野（主）に、「人文・社会」または「その他」に属する分野コードを登録した場合、研究分野（副）は、必ず「人文・社会」および「その他」に属さない分野コードを選択してください。
- ✓ 提出後での変更はできませんので、ご注意ください。

詳細は、募集要項 2.8.1、5.5、6.1へ



対象となる研究提案

失敗を恐れず長期的に取り組む必要のある挑戦的・独創的な内容で、以下①～⑤のいずれかに該当するような破壊的イノベーションにつながるシーズを創出する潜在性のある多様な科学技術に関する研究課題 を求めます。

- ① 「新たな知の発見や創出」または「基本原理の解明」が期待されるもの
- ② 研究の多様性の観点から継続的に取り組まれるべき分野の研究であるもの
- ③ 新たな技術的知見の発掘や革新的な技術の開発が期待されるもの
- ④ 科学的・技術的知見の「融合」によるブレークスルーや新たな研究領域の創出が期待されるもの
- ⑤ 研究成果の実利用または普及のための社会やシステムの転換が期待されるもの

詳細は、募集要項 2.1 公募の対象となる研究提案 [へ](#)



＜補足＞ 創発が求める研究提案

- 失敗を恐れない野心的・挑戦的な研究で、長期的な取り組みが必要な多様な研究を求めます。
→ 参照：募集要項2.1 公募の対象となる研究提案
- 「謂わば「0を1にする」ような大胆なテーマ提案」、「自身にしか生み出せないような独創性とアイデアで、誰も展開を想像できないような提案」、「新しいコンセプト、ユニークさ、そして何よりパッションに溢れた提案」など、「ワクワクする提案」を求めます。解こうとしているクエスチョンの大きさや、開発しようとする技術の重要性などを重視します。
→ 参照：募集要項6.2 創発POメッセージ
- 「破壊的イノベーションにつながるシーズの創出」に向け、**現時点で経済的な価値が明確でない理論的・基礎的な学術研究から応用研究に至るまで、幅広い研究を募集**します。提案に記載する「将来展望」については、必ずしも実装化について記入する必要はありません。それぞれの研究内容や分野に応じて、記入してください。



<補足> 創発が求める研究提案

- 「破壊的」「挑戦的」＝「無謀」ではありません。審査では、提案内容に加え、それを実現する一定程度の「エビデンス」、および、その挑戦的な研究を遂行する意欲・ポテンシャルを、総合的に評価します。なお、ここで言う「エビデンス」には、ご自身の成果だけでなく、他の研究者の論文や報告なども含みます。
- 創発では、挑戦的な研究を実現する研究者の遂行力を評価するため、提案書の「創発的研究を実施するうえでの遂行能力」において「提案者の貢献」「アピールポイント」を記入して頂いております。また書面だけではなく、面接による評価を行っています。
→ 参照：提案書様式2-2
- 一次書類審査では、提案者が記入した分野（科研の小区分相当）の専門家による、提案内容を中心にした評価、そして二次書類・面接審査では、創発PO・ADによる、より横断的・多角度からの視点での提案内容そして遂行力を評価します。



申請時の注意

- ✓ 2022年度公募に対し、1提案者につき1件のみ応募できます。
- ✓ 本事業は3回（2020、2021、2022年度）公募しますが、計2回しか応募できません。
- ✓ 既に2回応募している研究者は、今回は応募できませんのでご注意ください。

詳細は、募集要項 2.6.1 (4) 応募回数の制限 [へ](#)



公募概要

- ✓ 研究期間 原則7年間（最大10年間）
フェーズ1（3年間）・フェーズ2（4年間）
3年目にステージゲートあり
- ✓ 研究費
（直接経費） 5,000万円（上限）
フェーズ1：2,000万円（上限）
（間接費：直接経費の最大30%）
※別途、RA追加経費支援あり
（支援の条件あり）
- ✓ 採択予定件数 250件程度
（2022年度）

詳細は、募集要項 2.3 ～ 2.5 へ



応募要件

- ✓ 研究提案者自らの研究構想に基づく研究提案であること
- ✓ 自ら発案した研究構想を実現するために自立して研究を推進できること
- ✓ 所属研究機関において研究倫理教育に関するプログラムを予め修了していること。又はJSTが提供する教育プログラムを応募締切までに修了していること。

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 [へ](#)



応募要件（所属等）

- ✓ 日本国内の研究機関に在籍の上、創発的研究を実施できること
- ✓ 応募時に日本の研究機関に所属していない研究者は、2023年4月1日までに日本国内の研究機関に所属し研究開始することを条件として応募できます。
- ✓ 日本国籍を有する研究者については、研究開始の時期を採択後最大2年間猶予します。
 - 採択後2年以内に日本の研究機関に所属してください。
(応募時に帰国後の所属が決まっていなくても問題ありません)

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 [へ](#)



応募要件（研究費獲得経験等）

- ✓ 自己の責任と権限により使用可能な研究費（研究代表者として獲得した研究費）を、過去2年以内に受給していたことがある、又は受給中であること。なお、これに準ずるものとして、過去2年間に研究費を受給していない特段の事情がある場合などは提案書に理由を明記すること。
- ✓ 2020年度、2021年度、2022年度（現在）に支援を受けた公募による研究資金を対象とします。
- ✓ 所属する研究機関内の研究者のみを対象とした公募は含みません。

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 [へ](#)



応募要件（経験）

- ① 2022年4月1日時点で博士号取得後15年以下
（2007年4月2日以降に博士号取得）
 - ② 医学、歯学又は獣医学を履修＋博士課程修了後に臨床研修を修了
→ 2022年4月1日時点で博士号取得後17年以下
（2005年4月2日以降に博士号取得）
- << 研究に専念できない期間があった場合 >>
- ③ 博士号取得後から15年以内（②17年以内）に、出産・育児の期間
→ 2022年4月1日時点で博士号取得後20年以下（②22年以下）
 - ④ 博士号取得後から15年以内（②17年以内）に介護等の期間
→ ①および②の条件に当該期間分（最大2年）を引き上げる
- ★ ③＋④の場合、①博士号取得後20年以下（②22年以下）を上限

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 へ



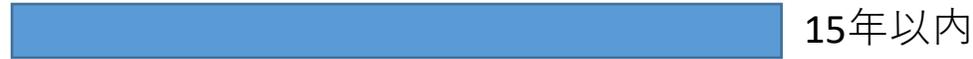
応募要件（経験） <事例>

博士号取得

博士号取得後年数



原則



出産・育児
経験あり



介護経験あり



出産・育児
・介護経験あり



臨床研修
経験あり

臨床研修





応募要件（研究費の重複制限）

研究代表者等として獲得している場合

<重複制限対象事業>

最終年度の場合応募可能です。

- 日本学術振興会所管の事業（科学研究費助成事業）
特別推進研究、新学術領域研究（研究領域提案型：領域代表者のみを対象*）
学術変革領域研究（A）（領域代表者のみを対象*）、基盤研究（S）
- 科学技術振興機構所管の事業
未来社会創造事業（探索加速型（本格研究）及び大規模プロジェクト型）
戦略的創造研究推進事業（ERATO、CREST、さきがけ（※））
ムーンショット型研究開発事業（プロジェクトマネージャーが対象、
ただし目標8.9はコア研究のプロジェクトマネージャーのみが対象）
A-STEP（産学共同（本格型、シーズ育成タイプ））
- 日本医療研究開発機構所管の事業
革新的先端研究開発支援事業（LEAP、AMED-CREST、PRIME（※））
- 新エネルギー・産業技術総合開発機構所管の事業
ムーンショット型研究開発事業（プロジェクトマネージャーが対象）
- 農業・食品産業技術総合研究機構所管の事業
生物系特定産業技術研究支援センター（BRAIN）
ムーンショット型農林水産研究開発事業（プロジェクトマネージャーが対象）

* 公募研究や計画研究の研究代表者は、重複制限の対象外となります。

※ さきがけ・PRIMEの場合、研究開始の猶予制度があります（次ページ参照）



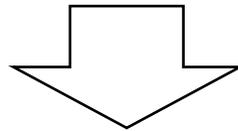
応募要件（研究費の重複制限）

重複制限対象事業

2023年3月末までに当該研究が終了する予定
(本年度が最終年度)

※ JSTさきがけ & AMED-PRIME

2024年3月末までに当該研究が終了する予定
(来年度が最終年度)



本年度創発への提案可能です

研究開始は重複対象事業終了後となります

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 [へ](#)



独立に関する条件

以下の独立に関する条件を満たすこと、又は原則フェーズ1（3年間）の間
に満たすこと

- ✓ 自己の研究に係る論文について、責任著者の立場にあること
- ✓ 大学院生等*の指導に責任を持つこと、又は持つ立場にあること
- ✓ 研究グループを組織して研究を行う場合は、そのグループの責任者であること
- ✓ 研究室を持つこと**

* 研究員や学部生も含みます。学位審査権は必須ではありません。

** 独立した研究を行うために必要な研究設備を設置する部屋や研究を遂行する部屋の管理の責任者であること。管理者として研究機関に登録されることは必須ではありません。

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 [へ](#)



採択後3年以内に満足すべき条件

- ✓ 現在、独立に関する条件を満足していなくても応募可能ですが、審査の時点で本条件を満足していない場合、将来的な見通しや独立への意欲等を確認したうえで、最大限の尽力を条件に採択します。

- ✓ 3年目のステージゲートでは、独立に関する条件だけでなく総合的な視点にて研究支援の継続の可否を評価します。

詳細は、募集要項 2.6 応募要件およびFAQ [へ](#)



選考の観点

- ✓ 本事業の趣旨に合致しているか
- ✓ 本提案募集の対象となる研究提案であるか
- ✓ 研究提案者自らの構想に基づく研究提案であるか
- ✓ 研究構想を実現しようとする意欲があり、実現の可能性が感じられるか
- ✓ 必要な研究遂行能力及び体制を有しているか
- ✓ 異なる機関における研究歴など自立した研究の推進に資する多様な経験を有しているか

次ページへ続く



選考の観点

- ✓ 研究構想の実現に向けた実践や他の研究者との議論・相互触発の取組等を通じて、新興・融合領域の開拓、関係研究分野の継続的な発展への貢献が期待できるか
- ✓ 創発的研究に遂行にふさわしい研究環境の確保に向けて、必要に応じて研究機関に対し協力を求めたり、調整したりする意志があるか
- ✓ 独立見込み（3年以内）の場合、その可能性が高いか

詳細は、募集要項 2.9 選考の観点 へ



研究費の使用

- ✓ 研究以外の業務の代行に係わる経費（バイアウト制）への支出は年間140万円（上限）とします。
- ✓ 個人研究者自身の人件費への支出は年間70万円（上限）とします。
- ✓ 上述の費用への支出の合計額は、本事業に従事したエフォートの範囲内で上限を年間210万円とします。
- ✓ 当該経費を支出する場合には、別途事務処理説明書において必要な要件や手続きの方法を定めていますので、ご確認ください。

詳細は、募集要項 3.3.1 研究費および事務処理要領へ



研究時間確保のお願い

研究時間が年々減る状況



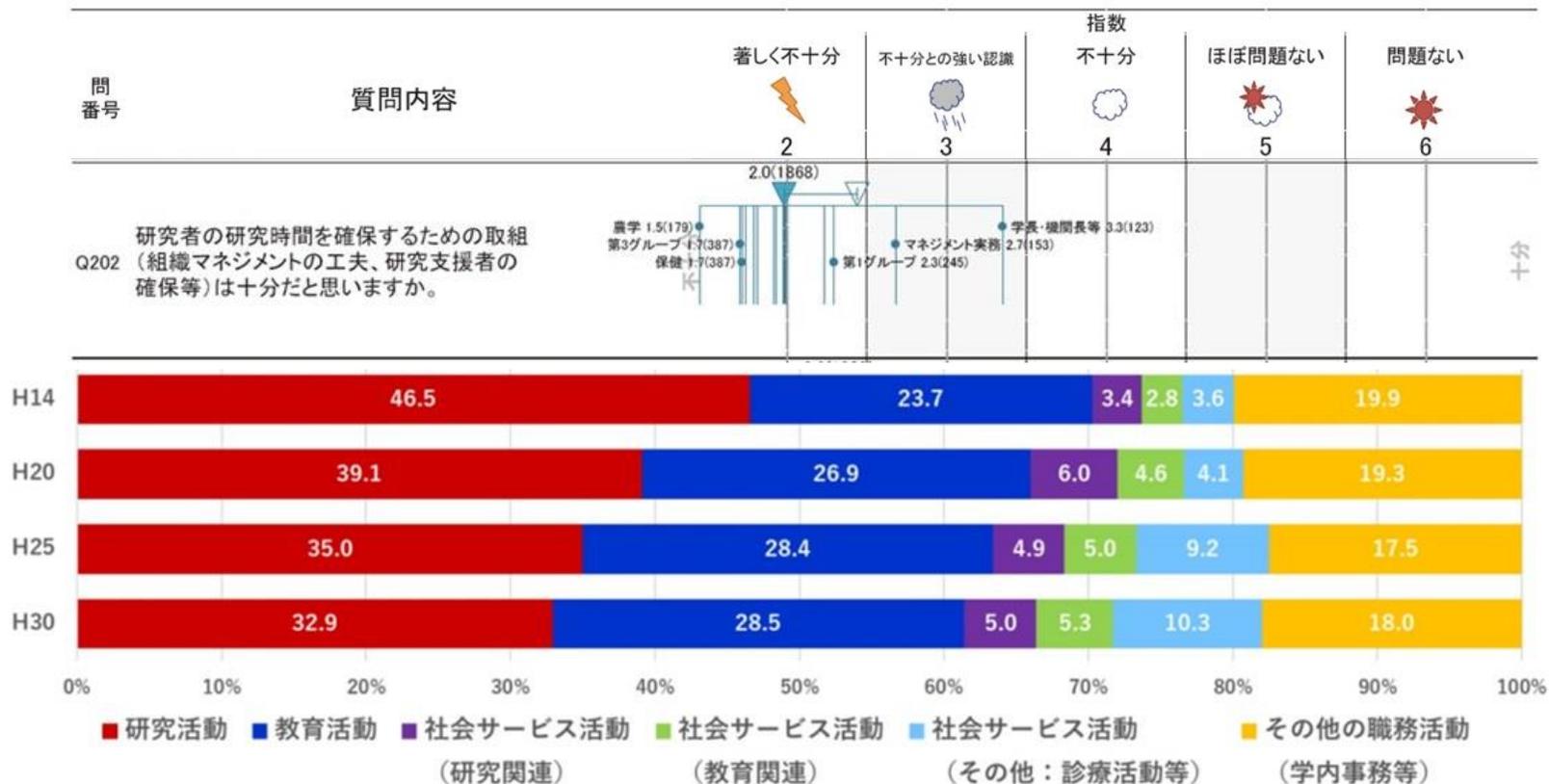
バイアウト制度の導入（最大140万円）
研究時間確保に向けた支援をお願いします。

研究活動全体/職務活動全体

理学系：55%

工学・農学系：45%

医学系：35%





研究環境改善の支援

- ✓ 各研究者が所属する研究機関の支援の下で、創発的研究の遂行にふさわしい適切な研究環境が確保されることを目指しています。
- ✓ 本事業で支援する研究者が、創発的研究に集中できる研究環境を確保するため積極的かつ秀でた支援を実施した所属機関に対しては、審査のうえ、追加的に当該研究者を取り巻く研究環境改善のための支援を行います。

詳細は、募集要項 3.4.2 研究環境の確保 へ



追加研究環境整備支援

- ✓ 審査時期：
 - ✓ 各期のステージゲート審査時（3年目）
- ✓ 支援額：
 - ✓ 1機関あたり最大5000万円/期
- ✓ 「積極的かつ秀でた支援」の事例：
 - ✓ 独立支援（定年制ポストの提供、昇進、研究室・スペース確保・拡大、研究室立ち上げ費用など）
 - ✓ 研究時間の確保に向けた配慮（バイアウト利用、大学事務負担軽減など）
 - ✓ 研究加速に向けた支援（研究スタートアップ費、学生の配属、研究・事務補佐員の支援、共通設備の優先利用など）
 - ✓ その他、研究環境改善や研究モチベーション向上に向けた支援
- ✓ 追加研究整備支援の用途：
 - ✓ 創発研究者を中心とした、若手研究者の研究環境改善



創発の場・採択後のメンター制度

- ✓ 採択された研究者は、創発を興すために定期的に行われる「創発の場※」に参加・発表・議論・運営等を行って頂きます。

※ 知の触発、融合研究の促進、ネットワーク構築

- ✓ 成果の最大化に向け、創発プログラムオフィサーおよび創発アドバイザーの指導、進捗管理を受けます。

創発とは（組織論より）

「個人個人の能力や発想を組み合わせる取組により、ある一定の要件に基づいた予測や意図を超えるイノベーションを誘発する様」

詳細は、募集要項 3.4.4 創発の場 へ



その他注意事項等

- ✓ 応募に際しての注意事項は募集要項第4章に記載していますので、応募前にご確認ください。
- ✓ 本事業の応募は府省共通研究開発管理システム（e-Rad）で受け付けます。e-Radでの応募方法や注意事項は募集要項第5章に記載していますので、ご確認ください。



【応募前対応必須】研究インテグリティに係る情報の登録

- ✓ e-Radの改修以降(2022年3月15日以降)に本情報の入力を行っていない場合は必ず情報を登録して下さい。既に登録済みの方は必要ありません。
- ✓ 登録は、創発公募ページ※の「別紙：府省共通研究開発管理システム(e-Rad)による応募方法」に従い実施して下さい。
※ <https://www.jst.go.jp/souhatsu/call/index.html>

e-Rad【研究者情報の確認・修正】→【所属研究機関】タブの、【e-Rad外の研究費の状況および役職と所属機関への届け出状況】にて、適宜情報を入力ください。

- ✓ 「入力事項について適切に所属機関に報告をしていること」を確認のうえ、
「**(3) 誓約状況**」の**チェックボックスに必ずチェック**して下さい。
(※入力事項の該当がない場合も、チェックすることが必須です。チェックマークが入っていない場合、応募を完了できません。)

詳細は、「募集要項4.3」および「別紙：府省共通研究開発管理システムによる応募方法」へ



その他連絡事項（高エネルギー加速器研究機構との連携）

- ✓ 高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所・放射光実験施設から、放射光利用に適した課題についてアドバイスを受けられます。また、創発的研究支援事業による研究課題は、高エネルギー加速器研究機構の放射光実験施設等の優先施設利用を受けられます。
 - ✓ 施設利用料：標準性能ビームライン 15,400円/時間、高性能ビームライン 30,800円/時間
 - ✓ 詳細は、<https://www2.kek.jp/imss/pf/use/program/>
- ✓ 高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所・量子ビーム連携研究センターから、放射光を含む、中性子、ミュオン、低速陽電子の複合的な利用（マルチプローブ利用）に適した課題についてアドバイスを受けられます。
 - ✓ 詳細は、<https://www2.kek.jp/imss/ciqus/>



本資料は概要の紹介です。

応募にあたっては必ず募集要項をお読みください。



募集・選考に関する連絡・お問い合わせ

募集・選考期間の連絡事項は

創発的研究支援事業の募集ホームページ

<https://www.jst.go.jp/souhatsu/call/index.html>

にて公開しています。

ご不明な点がありましたら、募集ホームページに記載している
問合せ先へご連絡ください。

souhatsu-application @ jst.go.jp